

日本学術会議会長談話

塚田裕三元会長に対する弔意

日本学術会議第12期において昭和58年5月から昭和60年7月まで会長を務められた塚田裕三先生が、去る5月14日に逝去されました。

今年で創立66年を迎える日本学術会議は、これまでに二度大きな制度改革を経ていますが、その最初のものが、会員の選出方法を従来の選挙制から学協会を基礎とする推薦制に改めることを主な内容とする、昭和58年の日本学術会議法改正でした。塚田先生は、この日本学術会議の在り方を大きく変える改正法案がまさに国会において審議され、その法案をめぐって内部でも激しい議論が戦わされていた第89回総会において、当時の久保会長が辞意を表明されたことを受け、急遽会長に選出されました。

日本学術会議の在り方をめぐって内外で様々な意見があり、喧々諤々の議論が行われる中、日本学術会議を一つの方向へ導いていくことが如何に難儀なことであったかは、想像に難くありません。塚田先生は、このような荒波の中にあって、新たな制度の発足に向けた政府との折衝、内部の意見調整などに奔走され、日本学術会議が新制度の下で順調に新たな船出を迎えるよう、その船頭役として大変な御尽力をされました。

日本学術会議は、先生の日本学術会議への多大な御貢献に深く感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

平成27年5月15日
日本学術会議会長 大西 隆